



白小鳩橋めいせい  
**祝1周年**  
平成26年4月1日 開苑



“入居者様の日々の喜び”をスタッフと分かち合い笑顔のたえない施設であり続け、また、感謝の気持ちを忘れず日々精進して参りたいと存じます。

「白小鳩橋めいせい」施設長 宮前竜二



桜の季節が過ぎ、緑が眩しい新緑の季節になりました。さて、今月号は開苑10周年を迎えました「篠崎明生苑」、開苑1周年を迎えた「蒲生めいせい」「白小鳩橋めいせい」の施設長よりメッセージが届いております。

篠崎明生苑  
**祝10周年**  
平成17年4月1日 開苑



家庭的な雰囲気の中で入居者様の居心地の良さ、楽しさ、そして生きがいを感じた時の笑顔を見たくて、職員一同、一丸となり精一杯努力して参ります。  
「篠崎明生苑」施設長 渡会清美



蒲生めいせい  
**祝1周年**  
平成26年3月1日 開苑



ご入居者様ご家族様からいただいた温かいお言葉はとても有難く、感動・感謝の気持ちでいっぱいです。これからも心の技術・接客で職員一同、皆さまにお幸せをお届けし、成長できるよう努めて参ります。  
「蒲生めいせい」施設長 大田正臣



「シリーズ介護の現場から」 vol.12 認知症ケアについて考える

十二回目の今号も、皆様と認知症について考えてみたいと思います。前号では、グループホームの生い立ちや歴史について述べて頂きました。今号では、グループホームで行われているケアや、ケアで活かせる設備等について考えてみましょう。

まず、最大の特徴というべき施設の規模としては、9名を最大人数とするユニット型であるという事ですが、ここでいうユニットとは、簡単に申し上げると、生活がそのユニットの中ですべて完結することと言えます。又、職員のシフト(勤務体制や各職種の配置)がユニット毎で決められていることが条件とされています。小規模で顔なじみの関係を築きやすく、入居者の混乱を最小限に防ぐ事も出来ます。まさに認知症介護の切り札的に介護保険制度が始まると同時に施設数は順調に増え続け、市町村によってはこれ以上の建築を許可しない、いわゆる「総量規制」的な考えもありました。現在では、市町村による第6期介護保険(保健福祉)事業計画と、新たな法制度のもと、建築が認められてきています。東京都では地域密着型サービス(グループホーム含む)数を目標値に近づける為に緊急的な対策を施しているくらいです。

さて、グループホームのケアに対する理念としては「入居者に寄り添った生活援助」でしょう。通常の介護施設のように炊事(調理)、洗濯、掃除...といったいわゆる“家政作業”がない施設とは違い、グループホームでは“家政作業”を入居者が行えるように支援するといったケアとなります。特に、女性の方では認知症になっても“家政作業”はいわゆる体で覚えた記憶として残存している方が多いので、それを利用した認知症ケアとも言えるでしょう。まさに残存能力を引出し、出来ることまで奪わない介護の基本的考え方が実践されているわけです。その方が認知症であっても施設はあるがまますを受け入れ支援していくことが使命の一つとしてあります。

次号は、グループホームでのケア実践例を皆さんと考えてみましょう。

認知症ケア専門士 西岡伸介